

Offshore

NO.240

10

1995 OCT.

“裕次郎レース”

今年も盛大に開催



「ヨットの科学」

ヨットと水槽試験



琵琶湖で恒例のヘインズカップ



第9回石原裕次郎メモリアルヨットレース1995

●開催日：1995年8月27日／場所：相模湾／参加：169艇

●写真：添畑 薫（フォトウェーブ）



裕次郎さんを偲んで2000人のセーラーが集った今夏
石原プロが総出でバックアップ。大いに盛り上がった



天気、風とも絶好のコンディション。イベントレースとはいえ、回航ラッシュとなったウェザーマークでは手に汗にぎる場面が続いた



10 :00のスタートを前に、まずは前年度の優勝艇が海上献花で本部艇に飾られた裕次郎さんの遺影に挨拶。VIPボートに乗り込んだ石原プロモーション所属の俳優、舘ひろし氏が見守るなかを、石原慎太郎名誉会長ならびに子息良純氏が乗り込んだ〈コンテッサX〉が強豪揃うIMSクラスでスタート。相模湾葉山沖の裕次郎灯台を回るメモリアルヨットレースが、今年も盛大に開催された。レース後のパーティでは、石原プロモーションの小林専務が陣頭に立って「大鍋料理」を披露する他、生バンドをバックに舘ひろし氏が熱唱を繰り広げるなど、石原プロモーションが総動員をかけて楽しさを演出。例年を上回る華やかな雰囲気の中で、参加者は今夏最後のレースイベントに酔いしれた。

最後のビッグイベント 恒例のメモリアルヨットレース



約1500人が参加した表彰式・パーティ



ヨットを愛した裕次郎さんへの献花



石原プロご自慢の「大鍋料理」に参加者は大満足

館ひろし氏が率いるF3000「ナビコネクション・レーシングチーム」。オンステージの頃は会場も最高潮に達した

今年の石原裕次郎メモリアルヨットレースに参加したのは4クラス合計で169艇、2085名。「裕次郎レースで夏を締めくくることが恒例になった」と多くの参加者が言うが、もはやこのレースイベントは関東最大というよりは日本一のヨットフェスティバルといっても過言ではないほどに成長した。

冒頭で述べたように、特に今回は石原プロモーションの全面的なバックアップのもと、館ひろし氏が率いるF3000「ナビコネクション・レーシングチーム」（オーナー：安彦明夫氏）がスポンサーとしてご協力いただくなど、ヨット乗りでなくても参加してみたいくなるような華やかな内容になった。

レースコースは、三浦半島佐島沖からスタートして、葉山沖の裕次郎灯台～辻堂沖を回

って佐島沖に戻る約16.5マイルとその内側の江ノ島沖を回る10.5マイルの2種類の大トライアングル。スタート時から最大30ノットのSWの風を受け、レースは終始迫力満点の展開。カラフルなスピネーカーの花が咲き乱れ、まさに相模湾東岸の沖はヨット一色。その光景は、きっと海岸を歩く人々を驚かせたにちがいない。

今年の夏、相模湾最後のビッグイベントで勝利の風をつかんだのは、IMSクラス〈シーホーク・ハイファイブ〉、IORクラス〈アマトラ〉、CRクラス〈Q'ROKU'O〉、ノンレーティングクラス〈ゼロクイーン〉の各艇。お祭りが濃いレースとはいえ、昨年に続き風に恵まれたため、参加各艇は速い展開のレースを満喫した。

レース終了後、シーボニア・プールサイドで行われた表彰式&パーティには、日焼けした約1500人のセーラーおよび、その家族や友人などが参加。石原プロモーションご自慢の「大鍋料理」が所狭しとプールサイドのテーブルにならび、裕次郎さんへの献花、献杯、表彰式を経て、館ひろし氏のオンステージが披露される頃になると、会場の熱気は最高潮に達した。

石原プロモーション「ナビコネクション」をはじめ、50社を超えるご協賛・ご協力により、今年の「裕次郎レース」は大成功。いよいよ来年は第10回目の記念すべきレースを迎えることになり、いまからすでに多くのセーラーたちが熱い期待を寄せている。

第9回石原裕次郎メモリアルヨットレース1995総合成績

IMSクラス

順位	SAIL No.	艇名	艇種	オーナー名	フリート
1	5445	SEA HAWK HIGH5	MUMM 36	世良直彦	逗子
2	3055	SAMOA VI	FARR 31	大石巖	シーボニア
3	4500	KARASU	MUMM 36	斜森保雄	油壺
4	4722	DREAMPIC	FARR 44	高城昌彦	逗子
5	5333	BJ-7	BNT 40.7	猪狩光清	油壺
6	1733	U.F.O.	ELT 35	川島正通	油壺
7	5070	SHARAKU	N/M 35	熱田二士行	逗子
8	180	DABOHAZE SUPER6	FST 42S7	土肥丈志	東京中央
9	324	AKIZUKI	FARR 31	和久井喜治郎	油壺
10	4669	SARA	FARR 25	木村恒雄	逗子
11	3465	TIBRON	FARR 44	高橋敏男	逗子
12	4511	GUANDALINA II	FST 38S5	嘉悦克	シーボニア
13	3954	YUUYAKE KOYAKE	YAM R9.5	西脇豊	葉山
14	2299	BIG APPLE	N/M 46	松田榮夫	シーボニア
15	4091	HEART OF NIPPON	FARR MRX	太田祥一	浦賀
16	3088	BUMBLE-BEE	YAM R30	山崎隆幸	油壺
17	4591	LUCKY LADY V	SAY 12	稲葉文則	熱海伊東
18	2777	HIKARI	SWAN 40	砂田信一	逗子
19	2112	FUJI V	FRE 45IMS	藤本達雄	油壺
20	3335	ORIHIME	FRE 41	古川保夫	油壺
21	5118	CENTURY FAST II	TRIP36	蝦名久美	東京中央
22	2677	GREAT PEOPLE	FARR 31	藤野真子	江ノ島
23	4241	G'NET	J-39	神部静江	逗子
24	1000	GEKKO	FRE-33	大興太郎	油壺
25	4737	TURTLE V	ELT 12	増田順一	東京
26	386	MORE JOY SIETE	FST 41S5	石川幸久	油壺
27	4635	ISIS II	DHL 36DB	北中将博	シーボニア
28	4026	SWEET BASIL	N/M 9.5	坂東陽一郎	諸磯
29	5185	JE REVIENS	IMS1030II	三宅直晴	逗子
30	188	CONTESSA X	FRE 48	石原慎太郎	油壺
31	3360	BIG SMILE	JAN 35	小高敏夫	逗子
32	5203	TRACER	TAK 34IMS	三宅智久	諸磯
33	3715	MISTRAL	ELT 935	小畑千安紀	諸磯
34	312	HAYATORI	X-372	草間信二	小網代
DNS	4366	A-4 II	SWAN 44	本村真章	逗子
DSQ	1118	BONANZA V	ELT 935	吉田豊	油壺
DSQ	4984	COUP DE VENT	YOK 30	日向野秋総	葉山

IORクラス

順位	SAIL No.	艇名	艇種	オーナー名	フリート
1	4870	AMATORA	FARR 40	佐々木義隆	浦賀
2	4033	ARE CAN BAY	FARR 40	後藤裕	逗子
3	5040	MATENROW	J/V 40	青山紀	逗子
4	4305	BLUE NOTE	FARR 40	五十井進	江ノ島
5	4379	SAIKEN II	YOK 30R	高橋伸博	油壺
6	1088	INDEPENDENCE V	YOK 30R	平松栄一	シーボニア
7	3414	ASIAN STORM	YOK 32S	井上一典	逗子
8	3001	HALF TIME	YOK-35	朝河清	シーボニア
9	3501	SONNBLUME	YOK 31N	村田修弘	シーボニア
10	3519	LA VIE EN ROSE	FARR 45	澤野裕治	シーボニア
11	3839	KAIENTAI	HOL 33	永田敬二	葉山
RET	3825	ROUGE	YAM R30II	能條秀夫	シーボニア
DNC	3002	SYLPHIDES III	FARR 3/4	蒲谷和行	シーボニア

CRクラス

順位	SAIL No.	艇名	艇種	オーナー名	フリート
1	2960	Q'ROKU'O	FAR 1220	溝口哲也	諸磯
2	667	KAY SEVEN	ODA-45	栗林定友	シーボニア
3	1985	HAGACHI	SK 32	吉岡久光	小網代
4	3770	FAR EAST	YAM 30S2	大川雅士	油壺
5	4404	ADONIS	YAM 31S	大野洋一	葉山
6	3592	LAHAINA V	SWING 31	佐藤文昭	諸磯
7	4991	TESESA III	YAM 31S	佐古田正美	葉山
8	3480	SOYOKAZE VII	BLT 35	古川三郎	浦賀
9	3531	KAGEROW	SWING 31	川久保史朗	諸磯
10	1465	MAUPITI	FRE-38	岩田禎夫	江ノ島
11	380	THETIS III	U-38	山崎利治	小網代
12	4577	ELFIN	YAM 28S	松井久芳	諸磯
13	4262	KASUMI	YAM 30S2	佐藤邦男	油壺
14	4985	FURU-TORA	CAPE31	山本智	諸磯
15	4166	DONBURA	YOK 26N	相田宏	江ノ島
16	3303	AEOLUS	YOK 31	大村雅一	横浜
17	2466	MERLUZA	J/V 9.6	杉田泰一	諸磯
18	3749	STARBOARD JR.	YAM 31S	村越一夫	葉山
19	4507	TORNADO III	SWING 31	勝呂忠	油壺
20	334	JUNE BRIDE IV	DUF-39	鈴木禮三	油壺
21	4524	JOJO	YAM 28S	日向野行平	諸磯
22	3295	SOUMI-Y	YR-38	佐藤三才	東京
23	5178	PLUMERIA	DHL 31	浦井和広	葉山
24	2662	ARIADNE 7	SWING 34	樺田敏雄	油壺
25	3768	FRENCH KISS	X-402	山科誠	シーボニア
26	4929	CAPRICORN	YAM 28S	尾口一章	東京中央
27	4919	ZETA XII	T-301	高原俊弥	諸磯
28	4781	MALOLO VII	J/80	石坂啓一	シーボニア
29	5453	FESTA	YAM 31F	小野沢秀典	シーボニア

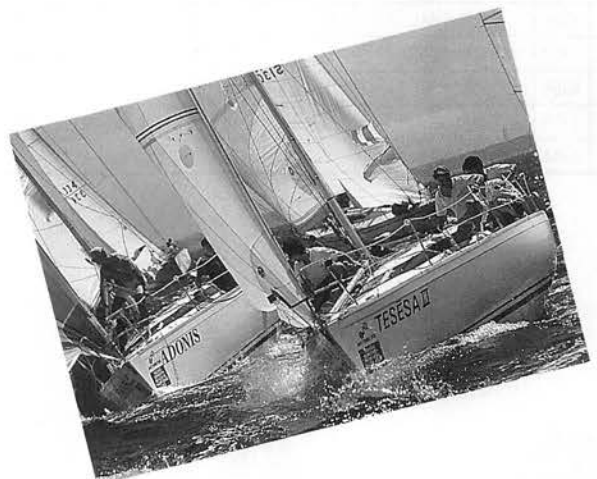
CRクラス

順位	SAIL No.	艇名	艇種	オーナー名	フリート
30	1702	PUSSY CATS VI	MA 34	岩井良浩	油壺
31	4936	SHARK J	YOK 26N	関根照久	浦賀
32	3387	BASIC	YOK 28	小坂橋博行	シーボニア
33	4408	HIDE III	BAV-30	萬里小路昌秀	シーボニア
34	4057	FREE CAT 2	YOK 30C	村上博幸	東京
35	5106	GALA	YAM 28S	菊川暁	油壺
36	2850	PASSAT 8	YAM 26IIS	鳥山睦郎	諸磯
37	4012	IF	X-312	石井敦	葉山
38	3959	MISA	FEEL 316	米山悦宏	浦賀
39	3949	SUN RISE II	YAM 26IIS	山本昇	葉山
40	2640	SUNBEAM 3	ELAN 33I	中村正三郎	小網代
41	2570	MANBOW	SWING 31	大坪博子	諸磯
42	4969	WINDY	YAM 31S	山下順征	東京中央
43	4214	SHICHIFUKUZIN	YAM 30S2	原尚	浦賀
44	4323	TERESUKO 3	SWING 28	三浦征幸	油壺
45	4195	CONSTELLATION	YAM 31S	宮川昌久	東京中央
46	4400	IDEAL	SWING 31	飯塚拓生	小網代
47	3802	E2	YAM 31S	市原恭夫	諸磯
48	4600	YUKIKAZE VI	FST 45F5	齊藤昌邦	江ノ島
49	3967	CARIBBEAN III	YAM 30S2	浜村尊司	油壺
50	1881	ANGUILLA	YAM 30S	市橋衛	横浜
51	4857	BLUE SHARK	EDV 30PB	長嶺公成	浦賀
52	3555	OIDON	YAM 35	藤田宏治	油壺
53	3877	DOLPHIN	FST 30S	中林靖治	シーボニア
54	4064	SAITA・MARIA	VEN 30	越信博	シーボニア
55	3494	ARC-EN-CILE II	YOK 31N	岸本忠平	シーボニア
56	305	RYUUJOMARU VI	OCNS 400	倉持和夫	諸磯
57	199	SALMON III	ORI 33	飯島征四郎	小網代
58	5195	KURA II	OCNS 35I	久保田勇蔵	シーボニア
59	2008	ODIN VII	YAM 30S2	吉田貞治	諸磯
60	1437	SUPER LADY-L	SPR 9.5	福吉信雄	シーボニア
61	4288	WINGS III	FST 32S5	古田邦夫	油壺
62	4801	JACKTAR V	SPR 9.5	加藤正敏	油壺
63	2602	L'HIPPOCAMPE V	CYB 32S	木村知己	シーボニア
64	3655	PASSAGE	EDV-30	関口敏正	諸磯
65	319	KAMAKURA II	EDV 30PB	鈴木駿一郎	小網代
66	4151	LIBRA	X-99	植村秀則	シーボニア
67	4685	WIND FOCUS	JAN 31SF	佐藤章秀	シーボニア
68	4730	FUJI TOKYO	YAM 30S2	藤沢正治	東京
69	1724	WILD ZOO・T	FST 310	足立尚史	諸磯
70	5436	MESTICA	FST 300S	吉田立夫	佐島
71	4957	JOLENE	SWING 34	永井直裕	諸磯
72	1234	DABOHAZE V	BNT 375	土肥丈志	油壺
73	381	HACHIJO VI	FEEL1090	近藤禎之	小網代
74	3739	SUNDAY	ELT 1050	湯田啓二	逗子
75	4115	SUN RISE	YAM 26C	太田伸生	諸磯
76	4666	TINGAARA	N/M 34PC	天城琢郎	浦賀
77	4131	BONIN ISLANDS	EDV-30PB	林茂夫	浦賀
78	4905	LAHAINA-3	YAM 30S2	秋山秀樹	シーボニア
79	4403	BIG DEAL VI	FST 345	堀江和博	油壺
80	3833	MONA LIZA	YAM 31S	守屋弓男	油壺
81	1044	TELEMATIQUE	JAN 34	高城昌彦	江ノ島
82	2549	CARUNO 9	YAM 28S	畔柳文昭	諸磯
83	2814	KOHFU	YAM 37	永田守	シーボニア
84	4626	EVER MORE	SK-25	大賀祥介	諸磯

順位	SAIL No.	艇名	艇種	オーナー名	フリート
85	3059	PHOTON GREEN	YAM 30S2	高木信幸	シーボニア
86	1401	MIZUNAGIDORI V	FARR 30	多田義和	油壺
87	5399	MONTAIN CUP	YAM 26C	吉田肇	諸磯
DNS	5069	CYGNUS	YAM 30S2	小野寺修二	シーボニア
DNF	2911	REILANKAN V	FST 35S5	中村靖憲	油壺
RET	4785	KARAPANA	YAM 23II	笠原英一	佐島
RET	2011	SAVAGE	TAK-31	中村寛	シーボニア
RET	4475	TSURUGI	YAM 34S	鵜飼恵	諸磯
RET	2000	GEKKO V	FRE 41A	並木茂士	油壺
RET	5463	EARLY BIRD	MELGES24	山崎正二郎	佐島
PMS	1960	HIPPO	SWING 31	安高知二	油壺
PMS	4604	FIRST	SWING 34	池田栄宏	油壺
PMS	1521	CYGNUS V	FRE 38	嶋田武夫	江ノ島

NON-RATINGクラス

順位	SAIL No.	艇名	艇種	オーナー名	フリート
1	4208	ZERO QUEEN	FRE 52	津村重孝	逗子
2	3267	BIG BANG	YAM 42R	久保勇治	シーボニア
3	2422	AOBA	YOK 40	福田義一	横浜
4	3536	ETUDE	ELT 10M	向井豊	油壺
5	3514	UNICON VI	FINGLF 36	武田貴太郎	葉山
6	3896	SHIKON	X 99	木村秀明	油壺
7	3807	AKURI	MAXI 1000	中村健一	油壺
8	3663	EBB TIDE	YOK 28	外山昌一	シーボニア
9	368	AKAGI	TAK 31	小林修	江ノ島
10	4999	HYOTANJIMA II	FST 32S5	牛山隆司	シーボニア
11	3641	LEI LANI	YAM 30	田中維大	油壺
12	5130	COCONUT GROVE	YAM 30S2	麻生昌宏	佐島
13	4092	DR. WITCH	ARC 30CR	野内宏之	浦賀
14	1580	RYU RYU III	DHL 34	田中秀明	油壺
15	5037	MARUSENMARU V	CYBELL325	来住野憲道	油壺
16	4558	ROMBIERE II	FIRST31	大川治彦	諸磯
17	4406	BELLSONIYA	YAM 25ML	賀持正雄	葉山
18	4767	PONPOKO	GBS 312	小林利郎	葉山
RET	5014	NIRAIKANAI	YAM 25ML3	仲泊宏	諸磯
RET	5295	SEA LION	YAM 30S2	坂仁視	シーボニア
RET	4202	LUNA V	YAM 31S	田中俊一	浦賀
DNC	5009	HOOHEMIGAESHI	J-24	斜森保雄	シーボニア



「ヨットの科学」勉強会(その2)

「ヨットと水槽試験」

レポート：大橋且典

8月26日／於：三井造船昭島研究所／講師：松井亨介氏、木村校優氏

本紙7月号で紹介した「ヨットの科学」勉強会の、その後の活動を報告します。今回は、表題のお話とともに、三井造船昭島研究所の実際の試験水槽が見学できるということなので、総勢27名で押し掛けました。同所の松井氏と木村氏から大歓迎を受けました。ありがとうございました。



三井造船昭島研究所で行われた試験水槽の見学

三井造船昭島研究所

同研究所は1992年と1995年、つまりニッポンチャレンジの全てのキャンペーンで水槽試験を引き受けてきた研究所として、その筋ではよく知られた存在です。想像したよりもはるかに都心に近い便利なところです。両氏の案内で、長さ200mの大水槽、100mの小水槽、模型工作所、等々を見学しました。

試験水槽の見学

何はともあれ実際の水槽を体験しようということで、小水槽の曳引車に全員が乗せていただいて、水上を走りました。残念ながら他の試験体がセットされていて、ヨットのモデルを引っ張るということまでは適いませんでしたが、1/7サイズのヨットのモデルとその取付けジグ等の本物を目の前にしての講義聴講には自ずから熱が入りました。参加者からの質問も多くて、予定していた時間をオーバーしてしまうほどの状況となりました。

以下、室内講義の概要です。

「ヨットの水槽試験とは」松井氏

ヨットの性能開発においては、そのレベル、ステージに応じてさまざまなツールやシステムが使われる。例えば、ハルやアベンデージ

の開発には、CFD、水槽試験、風洞試験、等々が使用され、性能評価ではVPPが使われる。そういう全体の中で水槽試験はどのように位置付けられるのか。また、他の船舶では見られないヨット特有の特性、例えばリーウエイ、ヒール、等々を水槽試験ではどのように取り扱うのか。——等々のレクチャーを受けました。

「水槽試験の基礎知識」松井氏

水槽試験とは一口で言えば、縮尺模型を用いて模型の流体力を計測し、それを解析して実船の流体力を推定することである。それに関連して、流体力学の最も基本となるふたつのナンバー、レイノルズ数とフルード数についての説明・解説する。——という内容でした。

「演習、水槽試験をやってみよう」松井氏

実際の水槽試験のレポートを参考にして、水槽試験を行う場合の模型速度、その時の剰余抵抗の算出、実船抵抗の推定、等々の演習を行いました。

「CFD超概論」木村氏

CFD(Computational Fluid Dynamics)とは文字通りコンピューターを使って流れを計算するプログラムのことですが、実際にはモニターの画面上に、ハル/アベンデージ周辺の

流れや造波の模様などがビジュアル化されるので、こういう講義の場面では見ていて全く飽きがきません。スケジュールの関係で先にドリンクが出たこともあって、質問も多く会場は大いに盛り上がりました。

注) お二人の講師はどちらも水槽(松井氏)、CFD(木村氏)の面でニッポンチャレンジにべったりと張り付いてきた、いわば造船界きってのヨット通です。

参加者の顔ぶれ

今回の参加者の中で最も目立ったのは、造船科の大学生の皆さんでした。大学院生、学部生合わせて4人。ヨット部経験者もそうではない人もいましたが、彼らがこれからのヨット界を担っていくのかと思うと、ちょっと心強いものを感じました。前回の「IMSのVPPプログラムの内部」ではプロフェッショナル・セーラーが多くて賑やかでしたが、今回はぐんと少なくなりました。それでもセールメーカーから2名の参加がありました。この会は首都圏外からの参加者が多いのも特徴で、今回は大阪、愛知、その他から4人ありました。毎回主流を占めるのは熱心なオーナーセーラーの(またはそれに近い認識を持った)皆さんです。そのせいでしょうか、会全体の雰囲気明るく地に足の付いた安定したものになっています。

〈今後のスケジュール〉

10月14日

「アメリカズカップとカーボンファイバー」
高橋太郎氏、会場は東京・新富区民館

12月2日

「ヨット、そのサバイバルスタビリティ」
野本謙作氏、会場は東京・新場橋区民館

「ヨットの科学」勉強会、問い合わせ先：
ヴァンデスユタット大橋内、

「ヨットの科学」事務局

TEL&FAX: 03-3669-8140

NIFTY: CXJ05026

生還してこの経験を伝えたい！台風の海で自分を励ました

オフショアレーサーからJ24まで乗りこなす 金子純代さん^{すみよ}

●レポート／戸塚由理恵（本誌）

〈月光V〉、〈ZERO〉のクルーを経て、'87メルボルン〜大阪ダブルハンドに女性コンビで挑戦。以後、日本海レースや環太平洋レースなどに参加し、その華々しい活躍が日本中のセーラーから注目されている、金子純代さん。今回は、ヨットの虜になり国際舞台に踊り出た若きOLの素顔に迫ってみた。

キュートな姿のその人は長い髪の乙女、女子大生のイメージをほうふつさせて現れた。静岡県清水市出身。幼少期は三保の松原で、天女に見守られるように懸命に水泳に励んだという。1979年、株リクルートに入社後、大学生向け就職ブック、営業事務の担当になり、その時の同僚がディンギー乗りであったため誘われ、葉山でヨットの第一歩を踏み出す。やがて同僚の友人が早稲田大学OBという縁に連れられ、〈月光V〉にお邪魔するようになるが、並木オーナー（現NORC会長）に乗船許可をなかなかもらえなかった。そんな1982年、西宮のビックボートレースの回航に並木オーナーに乗せてもらい大感激。大海原を越え、朝日、夕焼けの感動に浸った。

やがて〈ZERO〉のチームに移り、ヨットのあれこれを学ぶ。が、サポートの立場にいる自分にあきたらず、何でも自分でやりたい！という動機から、回航もやり、初島のダブルハンドに'87年に挑戦。段々自信が湧いてきた。そして、ついに同年1月1日日本を出航。スキッパーとして自分で経験を積み重ねた成果は、「メルボルン〜大阪ダブルハンドヨットレース」への回航、レース挑戦となって現れた。しかし、出航後5日間は辛かった。寝ずの準備が響いて体調をくずしたが、小笠原を過ぎたところから活力を取り戻す。

当時、仕事は人材派遣会社の社員をしてフリーの立場にいた。

レーススタート後、ラダーが根元より脱落。応急ラダーも間に合わず1週間、タスマン海



昨年開催された環太平洋ヨットレースで〈YAMAHA MARINA CITY〉(オーストラリア)に乗り込んだ金子純代さん

で40ノットの中を漂流する。バケツ、シーアンカー等あれこれ手当てもしたが、オケラネットの無線チームのおかげで助かったようなものだと語る。「海流に流されましたが、このまま大陸に着くと思いました」。その後沿岸で曳航され、タウンズヒルに到着。波浪、風ともに強烈だったが、新ラダーを注文後、パートナーのMsベス（豪）と怖れこわがりながらも再スタートを切る。「台風後ろを追いかけられながら、赤道を越えて、とうとうN5の地点で台風につかまりました」。5分〜10分無風が続いた後、あっという間に風が上がり、メインセールを下ろしている最中、60ノットに

なる。風雨と格闘し、「あれは火事場のバカ力と言うんでしょうか？」とご本人も武勇伝を懐かしむように、「何とかストームジブを上げ、舵を縛って船内に避難しました」。

風は80ノットに上り、寝ることもできない時間が続く。日頃の行いを反省し、神や仏にもお願いをしてみたが、突如2人の心に閃が走る。

「この経験を皆に教えてあげなきゃあ！語らなきゃあ！生きて絶対日本に帰ってやる！」の執念が彼女たちの帰還を助ける。「絶対北上するぞ!!」の決意のもと、相棒ベスと慎重な努力を重ねる。40ノットに吹き飛ばされながらもなんとか無事完走。「これらの成功



自艇J/24〈ラル〉チームの面々。右端が金子さん

は、船をサポートしてくれた人たちのおかげです。よい艇を捜してもらったり、無線で助けられたり……」と彼女は感謝を忘れない。

その後、'92年、'93年の夏に行われた日本海横断レースに女性チームでチャレンジし、総合3位。また昨年の5月に行われた環太平洋（ブリスベン～大阪コース）レースでは日豪合同チームのナビゲーターを務め、優勝を勝ちとる。

また、今年7月の鳥羽レースでは、〈BE-ONE〉チーム5名と日頃のJ/24〈ラル〉の混成チームで参加した。成績は〈コンテッサX〉に47秒遅れの着順2位・総合25位。大島からのフィニッシュまでのデッドヒートはすさまじいものがあったらしい。そのレースでは、男性がいると、つい甘えてしまう自分を反省する。

だが彼女の所属するJ/24〈ラル〉チームの女性たちは、責任感の強い女性ばかりの集まり。整備もきちんとするし、キズだらけになっても船底を洗い、船を磨く。「また、そういう女性しか残っていない」ともいう。

「レース準備で汗を流した結果、〈BE-ONE〉チームの男性方から感心されました」。その艇〈LOVE・A・LUCK〉を提供してくれた舞鶴の荒木義正オーナーは、金子さんたちの強力な味方であり、快く艇を貸し



てくれる。「お世話になっている荒木オーナーをご招待し、来夏のケンウッドカップにぜひ出場したい!」と友情と恩義を忘れない。

自分たちのJ/24〈ラル〉チームは、「新車を買うくらいの値段で買えるので……」と金子さんが買ったが、「あちこち壊れるたびに新品の部品を購入していったのではお金が続かないと皆に伝えて以来、誰もが物を大切にするようになりました」という。〈ラル〉の維持費は各人月1万円。その資金を使い女性6名で毎週土曜日、油壺沖で練習に励んでいる。ヨットに乗り、海にしていると心が落ち着くという

金子さんだが、平日は今なお、人材派遣会社社員として勤務にいそしむ毎日。逗子の住まいに猫2匹が同居し、「毎朝、会社に行く前に掃除、洗濯をすまして出勤します」。多忙な朝のスタートから、電車の中で好きな推理小説を読み、終業後は同僚たちと一杯飲みに行ったり、映画を見たりというOLの日々を人並みに過ごしている。「ボーイフレンドは? 結婚は?」とうかがったところ、「ヨットをやってない人でもよい、決断力のある、有無を言わさず引っぱりってくれる人がよい。私に一言いってくれば考えちゃうのに……」と微妙な女盛りの心が揺れる35歳。「NORCのシリーズレース(KSC)は、最近楽しそう。IMSに切りかえたら毎週人も集まり頑張る船がふえてきたようで、私も参加したいけどお金が続くかなあ?」と検討中のようなのである。血液型O型、射手座の故か、「無理よ、とかダメ、危ない」等の言葉を忠告されると、まずは心に反発が生じ、「じゃあ、人ができないならやってみよう!」と固い決意がみなぎるチャレンジ精神の持ち主である。「男性セーラーでヨットを続けている方って、何かこだわりの美学があるように思えるし、それは魅力だと思います」。魅力ある男性にいつか巡りあわれるよう、またご活躍を祈念いたします。

「ニッポンチャレンジ」次回ACに挑戦を表明

ヨットのニッポンチャレンジアメリカズカップ2000準備委員会は9月28日、名古屋市内で2000年にニュージーランドで開催が予定されている第30回大会に挑戦すると発表した。10月1日にシンジケートを設立し、新たに始動する。

ニッポンチャレンジは今年3月の挑戦艇決定戦の準決勝で全敗した。次回は資金面や母体となるニッポン・ヨットクラブの資格問題

(設立5年以上)などもあり挑戦が危ぶまれていた。

しかし同クラブの木村太郎会長は防衛クラブであるロイヤルニュージーランド・ヨットスクォードロンと交渉の末、「詳しい内容は話せないが、挑戦できると確信した」と語った。

また資金について準備委員会の山崎達光会長は「すべてにめどはついていないが、全力を挙げて取り組んでいく」と強調。中部経済

連合会の松永亀三郎名誉会長も全面的なバックアップを約束した。

今後はクルー選考を含めたチーム作りを進め、来年5月のエントリー締め切りまでに防衛クラブであるロイヤルニュージーランド・ヨットスクォードロンに挑戦状を提出する予定。

(共同通信社配信)

新しい風に、新しい帆を(その7)

関東支部は小活動単位に細分割され、そのおの

関東支部規約運営等検討94年12月設置特別委員会(略称9412委員会)委員長 高田尚之

かねてより、9412委員会は将来の関東支部のあり方を検討し、その方向づけが固まりましたので決議案のかたちで関東代議員会に提案し、議決・承認を求めてきました。

さる7月26日代議員会が開催されたのですが、定足数不足(出席27名・代議員数88名・定足数45名)でこの決議案は審議されませんでした。

この決議案を議決するかどうかは、今後の関東支部ひいてはNORCのあり方に極めて重大な影響を及ぼすことがかんがえられます。従来、代議員会は委任状や書面表決を利用して議決してきた(つまり出席少数でも委任状や書面表決を出席とみなし議案をとおしてきた)のが実情なのですが、この決議案については、過半数以上の代議員が出席し、検討を経たうえで決めるべきだと、代議員会自身がみずからハードルを高くし、真剣に・慎重に討議する姿勢をしめたのです。その結果、前回は人数が少なく審議しなかったのです。

9月19日、NORCの歴史はじまって以来という多数の代議員が出席し、会議が開かれました。なんと53名もの代議員が集まったのです。欠席の代議員には海外出張中や地方出張中や入院中で、物理的に参集できない方々もおられました。

会議は、6時45分にはじまり、会場を追い出される9時まで、びっちり論議を重ねました。記名投票の結果、賛成41、反対7、キケン5の圧倒的多数で決議案は可決成立しました。

関東支部の方針は、このようになる、 ことが決まりました……

決議全文をごらんいただくのが早道だと思いますのでお読みください。早速、来年度から、事業のあり方や、関東支部の運営の仕方が、この決議にそってかわっていきます。関東水域の会員にとっては、おおきな政策の変更ですので是非よくご理解ください。

「関東支部を小活動単位に分割し、そのおのおのを支部化する 決議」・全文

「関東支部は民主化の面、人的・経済的・社会的状況の変化に積極的に対応する必要があるが、関東支部が現在の大きさのままでそれらに適合し、維持し続けて行くことは困難である。

従って、本部は公益法人としての機能を強化し、支部は他の地方支部程度の大きさを念頭に置きつつ、風通しがよく、会員同志が互いに顔の見える範囲の小集団(小さな活動単位)に分割組織し運営する。その際、できる限りの権限をその小さな活動単位に直接下ろし、その各集団は支部としての機能を発揮できるようにする。

小集団の構築には、各地域事情を考慮しながらその地域の自治を尊重しすすめる。

小単位で権限を委譲されたNORCの会員とヨットクラブの会員とが一緒になって行動し、その地域の特性に応じ、多様化するニーズに

応えながら、やがてヨットマンとしての同一の目標に向けて努力を積み上げて行くことを目指す。

小活動単位は、自然発生した各地域のクラブと連携をとり、競合関係を脱する。現在の関東水域に基盤を持つこれらのヨットクラブをリードしている人々はNORCの会員であるので、この人々の力を借りながら、目に見える範囲にくくり直した大きさの単位の中で調整を続けていく。その際の原則は、NORCのサイドからクラブにお願いし、協力を求めていくことである」。

9412委員会では、本部が公益法人的活動を、支部はクラブ的活動を主体にして運営していく、という基本方針をたて、前回の代議員会でまずその方針が承認され確定しました。

そこで今後、関東支部がクラブ的活動をしていくにあたって、いまの2500人体制のままで、クラブ活動をするのがいいのか、もっと小さな単位に関東支部を細分割してクラブ活動をするのがいいのか、の方針を、この際決めようではないかと提案し、その結果として今回、関東支部を細分割して小活動単位にして、そのおのおのを支部化していくのがよいとの基本方針を確定したというわけです。

小活動単位に関東支部を細分割するのと、 現在のフリートを活性化して問題を解決するのと、 どちらがうか……

フリートを活性化すればものがごとく解決される。だから、支部を細分割するのには反対だという論議がたまに聞こえます。私たちもまさにその議論は一面では正しいと考えています。

しかし、私たちはそれで物事が解決されたのは、まだフリート活動が活発だった数年前、いえ10数年前、いえもっと前、そのへんの時期ははっきりと申し上げられないのですが、とにかく間違いなくフリートを中心に関東支部が活動していた時期があり、そしてフリート活動が次第に個人のグループにささえられ、あたかもフリートが活動しているよう見えはじめた時期、つまり変質がはじまった初期のころであったなら、たぶんその政策は手段としても有効だったと考えています。しかし現時点では、言葉の上ではすばらしい代案なのですが有効な具体策がともなわない代案なのです。

9310、9412委員会の調査をつうじて明らかになってきたことは、現状ではフリートはあたかもフリートという名のもとに存在しているだけで、ほとんど有名無実だということが分かったのです。

身の回りをよく見て下さい。

あなたのフリートで総会に何人がでていますか。フリートで現執行部への要望を何か出したことがありますか。フリートキャプテンの選出にあなたは関わりましたか。毎月の常任委員会の報告は届いていますか。代議員がフリートの要求をまとめたことがありますか、代議員から決まったことの報告をうけていますか、フリートでやるレースを

おのが支部化されます……

手伝っていますか……

いまや、フリートを活性化するのは難しいと考えているのです。私たちは、「活性化」とは汗をかくて苦労することだ、と置き換えて考えています。各地区でみずから汗をかく人がたくさんいるところ、そこを「活性化」している地区と考えています。

いま、フリートで汗をかく人が極端にすくなくなつて、みな他人まかせ、俺は遊ぶ人になってしまっているのです。

地域のクラブがみなうまくいっているわけではないことは承知しています。ですが、いまや地域のクラブはすくなくとも、NORCのフリートより汗をかく人が多いのは事実です。そのクラブとNORCとか競合をするのは得策ではありません。

むしろ、関東支部を小さな活動単位にわけ、ここが重要なところですが、その各活動単位が権限と責任をもち、つまり小活動単位を支部化し、自然発生的にできたクラブと連携をとりながら自分たちのヨットライフの充実をもとめていく、これが私たちが関東支部の今後のあり方として提案してきたことなのです。

関東水域のこれからは、 小さい活動単位が中心の遊びだ……

先月号でもご報告しましたが、本部と関東支部の機能、人、もの、金を分離することは決まりました。そして今回、関東支部を小さな活動単位にくりなおし、その小活動単位を中心に関東水域で徹底的に遊ぶという方針も決まりました。

この際、私たちは本部の公益的な仕事は本部のテクニカル集団に実施してもらい(もちろん私たち会員が後押しして)、あとは関東支部が遊びのクラブとして、現状にあった形で楽しいクラブライフを徹底してやってもらう、ということになります。

関東支部、2500人の大きさと、一塊として、クラブとして遊んでいくのは難しいので、もっと小さい塊にして、みなが集まって簡単に意見が通じるような単位に関東支部をくりなおしてクラブライフを楽しんでゆき、そのクラブ、クラブの中から自分たちの要求を上の方で集めてゆくように機構もかえていこうと決まったのです。

遊びにしても、公益的な活動にしても、活動についての原資が必要です。どういうことになら金を負担するのか、だれがどう負担するのか、それがどのくらいくらなら納得できるのか、金をはらわないのならどうボランティアでそれを吸収してゆくのか、会員は何を望んでいるのか……などなど、会員自身が考え会員自身が決めることなのです。いま関東支部は変わろうとしています。

一番たいせつなのは会員の意志です。民主的方法で関東支部が変わっていくのが大切です。

私たちは今後もいろいろな案を提出します。そのどれを選択するかは会員のみなさんなのです。

どうか、代議員の方々とコミュニケーションをよくしてください。あなた方に代わって代議員の方が採決に関わっているのですから。また代議員の方は、ご自身の責任が重いこともどうか自覚して下さい。最低、NORCに返事だけでも出す責任ははたして下さい。(つづく)

9412委員会アンケートにご協力ありがとうございました。

OFFSHORE 7月号で、関東支部の会員2,500名を対象に9412委員会アンケートを実施し、78名の方から回答が寄せられました。ご協力ありがとうございました。

目的は、サイレントマジョリティの声と 問題意識の醸成

今回のアンケートは、事前に一部(シーボニアフリート・初島レース)で実施した経緯もあり、回収率としては余り芳しいものではありませんでした。しかし、ご回答いただきました多くの方が関東支部の将来に対して大変真剣にとらえ、ほとんどの方が署名入りでご記入されており、特に、フリーアンサーに対しては、大変貴重なご意見が数多く寄せられております。

今回のアンケートの主旨は、サイレントマジョリティの声なき声をどう集約し、関東支部の施策に反映させていくか、また、アンケートの質問に回答することで、現在、関東支部が抱えている諸問題についての問題意識を醸成していくことが目的でした。

質問設定は仮説から立証に

- ①ドナー会員はなぜNORC運営に関心がないのか?
- ②フリートは本当に形骸化しているか?
- ③ボランティアやコミティは本当に不足している

か?

- ④レース以外の事業計画で何を望んでいるのか?
- ⑤会員メリットがないといわれているが、その認識は?
- ⑥会費アップに対する許容範囲は?
- ⑦重要課題「細分割」に対する関心度とその醸成は?
- ⑧関東支部活性化の潜在的な疎外要因は何か?

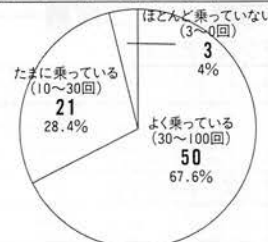
データプロフィールは積極的マルチヨットマン

今回のアンケート結果は、回答率から見ると必ずしも全体の意見を反映しているとはいえないが、質問①のヨットに乗っている頻度からみると(表1)、「よくヨットに乗っている」と応えている「ヨット乗り積極派」の方々のご意見として、とらえることができます。

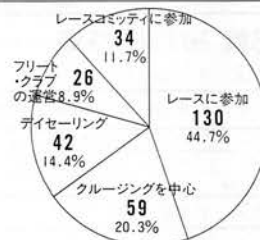
また、質問②で最近のヨットの関わりを尋ねています(表2)。その結果としては、単にレース派だけでなく、クルージングやディセーリングを楽しみ、またフリートやクラブの運営にも携わっている、「マルチヨットマン」がデータプロフィールとなっています。

フリーアンサーアンケート分析については、次回にご報告させていただきます。また、フリーアンサーは、できるだけ多くの方の「生の声」を、そのまま報告していきたいと考えております。

質問①あなたはどのくらいの頻度でヨットに乗っておられますか?



質問②あなたは最近ヨットとどのように関わっていますか?



KSCシリーズの魅力(第6戦までを終えて)

リポート／関東支部IMS委員長 稲葉文則 (〈ラッキーレディV〉オーナー／スキッパー)

NORC関東支部の帆走委員長、島まわりの鬼、植松清は、外洋レースのルネッサンスを夢見て、島まわりレースの入門編「初島レース」を年間に8回もやろうという暴挙にでた。

ブイまわりのソーセージコースなんか、ディングー野郎にまかせて、俺たちは外洋を目指す、なんかカッコイイことを言っちゃったが、この不況の嵐のなか、あえて銭、暇がかり、女の子も見ていないマゾヒストの集団、外洋レースに何艇かでてくるのか、内心はビクビクもの、果してロングシリーズレースが成立するのか。

しかし、関東のフリートキャプテンたちは、闘将、植松を見捨てなかった。各フリート持ち回りでレースコミティとなり、参加艇の増大をはかった。もちろん独立採算の分け前を増やすためでもあったが、コミティは燃えた。レース前日の艇長会議の活気が今までより違う。女の子たちが受付で張り切っている。レース委員長は、フリート独自のやり方を出そうという工夫をしてくる。

フリートの活性化が始まったのだ。そんな熱気におされてか、今年の初島は、風がいい、天気もいい、雨なんか一回も降ってこない。毎回ピカピカのレース日和である。

関東にヨットを持っているオーナーはこれに出なきゃNORCに入っているメリットはない。特にCRクラスはおもしろい。どの艇が勝っても不思議ではない。トップ艇が毎回入れかわる大混戦である。しかしオフショアレースは、自然相手のスポーツで、勝ち負けは偶然が支配するなんて思っているヨットマンに勝目はない。とくにIMSクラスのヨット

は、その性能がすべてレーティング証書にあらわされている。また相手艇との比較もスクラッチシートで推測できる。KSCシリーズも6戦までくと初島までの風の吹き方、汐の流れが読めてくる。自艇のポテンシャルをどこまで引き出すか、いかにまわりの状況を読んで艇を帆走させるか、が勝負である。頭脳と経験とミスのないクルーワーク、KSCは実にシビアなレースである。

我が〈ラッキーレディV〉は、IMS・Aクラスで常に4番。6回も戦って入賞したことがない。第5戦なんか、たった1秒差で4位。トップとの差だっていつも修正5分以内、48マイル8時間も帆走して5分/480分=1%の戦いである。IMSクルーザーディビジョンの1%ボーナスがうらめしい。しかしその差はだんだんつまっている。クルーの練度も上がってきた。あとはオーナーの財布の中身とニューセイル。熱くなるなあ!!

初島レースのホットコーナー紹介

それは島の北西コーナーにある浅瀬である。某支部長が、いつかのレースのおり、大島からのビケを取り戻そうとあせり、ショートカット、みごとオンザロック。キールがふれてウィングになり離脱成功。それからがすごかった。はるか前方のレース艇をブッチギリ、小網代に着いたときはなんと優勝。(風が変わっただけ?)

それに味をしめて今シリーズは常に島ベタ近回り。いつのまにか初島で先行艇においつき、レーティングで優勝も3回。ギャハハハ……と笑って大御機嫌。それにつられて熱く



筆者(ボート側の右端)

なったIORワントンボートのヘルムスマンが、もっとインサイドをねらう。ここでの差が勝負を決めるのだ。しかしオーナーは渋い顔。調子にのるといつかキールがぶつとび、ハルに穴があく。ダメージの修理はオーナー責任だ。〈織姫〉はもう償却済みの艇である。決して真似はしてはいけないし真似できない。このシリーズ、関東支部長のためにやっているレースだと思い知った我々である。

蛇足、〈ラッキーレディV〉は今年初島レースを12回帆走した。土曜日朝4時熱海発。油壺着8時。スタート10時。ゴール18時。油壺発20時。熱海港着24時。片道4時間。判で押したような規則正しいセーリングである。遊びには、コストパフォーマンスがあるが、我がチームの場合、このように一日十分に遊んで、エントリーフィー、交通費、飲食費全てを割勘にすると一人当たり3,600円、時給180円。結論から申せば、この不況時における価格破壊レジャーである。ただし全レース、〈ラッキーレディV〉の乗員は、すべてNORCの会員だからできる値段である。そして日曜日余ったお金で家庭サービス、これがヨットレースを永く続ける極意である。

KSC第5戦(8月5日)成績

IMS-Aクラス 参加艇 7 艇

総合順位	セーラーNo.	艇名	艇種	オーナー名	フリート
1	1733	U.F.O	エリオット	川島正道	油壺
2	3335	織姫	FRE-41	古川保夫	油壺
3	4722	ドリームビック	ファ-44	高城昌彦	選手

IMS-Bクラス 参加艇 6 艇

総合順位	セーラーNo.	艇名	艇種	オーナー名	フリート
1	324	あきづき	ファ-31	和久井喜治郎	油壺
2	2777	ひかり	スワン40	砂田信一	選手
3	3711	ビックブルー	エリオット935	弘 義行	東京中央

KSC第6戦(9月9日)成績

IMS-Aクラス 参加艇 7 艇

総合順位	セーラーNo.	艇名	艇種	オーナー名	フリート
1	4700	ビーワン	TYL43	合田耕平	シーボニア
2	3335	織姫	FRE-41	古川保夫	油壺
3	4722	ドリームビック	ファ-44	高城昌彦	選手

IMS-Bクラス 参加艇 9 艇

総合順位	セーラーNo.	艇名	艇種	オーナー名	フリート
1	324	あきづき	ファ-31	和久井喜治郎	油壺
2	4218	ナポレオン	TAK34IMS	石田和久	佐島
3	2777	ひかり	スワン40	砂田信一	選手

IORクラス 参加艇 5 艇

総合順位	セーラーNo.	艇名	艇種	オーナー名	フリート
1	3606	ボーイ	ファ-40	山田 隆	シーボニア
2	4033	アーカンベイ	ファ-40	後藤 裕	選手
3	5050	シーホーク	J/V40	世良直彦	選手

IORクラス 参加艇 6 艇

総合順位	セーラーNo.	艇名	艇種	オーナー名	フリート
1	4033	アーカンベイ	ファ-40	後藤 裕	選手
2	5050	シーホーク	J/V40	世良直彦	選手
3	5040	マテンロウ	J/V40	青山 紀	選手

CRクラス 参加艇 6 艇

総合順位	セーラーNo.	艇名	艇種	オーナー名	フリート
1	1986	波勝	SK32	吉岡久光	小網代
2	3480	そよかせ7	バルチック35	古川三郎	浦賀
3	3531	かげろう	スウィング31	川久保史朗	諸磯

CR-Aクラス 参加艇 8 艇

総合順位	セーラーNo.	艇名	艇種	オーナー名	フリート
1	4604	ファースト	スウィング34	池田栄宏	油壺
2	2466	メルルーサ	J/V9.6CR	杉田泰一	諸磯
3	4600	雪風VI	ファースト45F5	齊藤昌邦	江ノ島

CR-Bクラス 参加艇 6 艇

総合順位	セーラーNo.	艇名	艇種	オーナー名	フリート
1	3480	そよかせVII	バルチック35	古川三郎	浦賀
2	3531	かげろう	スウィング31	川久保史朗	諸磯
3	1985	波勝	SK32	吉岡久光	小網代

第5回 宮津ドルフィンカップヨットレース 我がフリートのビッグイベント

●1995年 8月13～16日、鳥取～宮津、参加7艇 ●レポート・写真／江崎永二(近畿北陸支部)

「宮津ドルフィンカップヨットレース」も今年で5回目となりました。毎年お盆休みは、このレースと「宮津燈籠流し花火大会」の見物を楽しみにしている参加艇も多いようです。宮津の伝統的行事で350年の歴史をもつ「宮津燈籠流し花火大会」は、例年8月16日に日本三景「天立橋」を擁する宮津湾で行われています。日暮れとともに故人を偲ぶ数千の燈籠が海に流され漂い始めると、海上より色とりどりの花火が打ち上げられ静かな水面に映ります。

数年前まで私たちは、ブイ回りレースや島回りのデイレースばかりで、オフショアレースといえば、遠いレース開催地まで回航し、レース、再びホームポートまで回航するという夢のように楽しいこと、しかし容易ではないことと諦めていました。宮津と舞鶴のヨットマンにより若狭湾フリートを結成し活動を開始してまもなく、私たちの手でオフショアレースを開催し楽しみたいという希望が高まり、メンバー30数名全員がもてる力を出しあい、自分たちのレースを実現しようということになりました。

以前より交流のあった鳥取県境港の鳥取外洋ヨット協会の協力を得て、オフショアレースのコースは、境港～宮津間110マイルと決まり、それを第1レースとし、宮津湾内でのインショアレースを第2レースとして、毎年8月13日～16日に行うということで「宮津ドルフィンカップヨットレース」が1991年にスタートしました。レースの開催にあたっては、第8管区海上保安本部、京都府、宮津市、その他たくさんの方の支援や協力を得ることができ、運営もNORC近畿北陸支部の皆様が協力していただくことになりました。なかでも、境港から宮津までのオフショアレースの間、第8管区海上保安本部の巡視船に見守られレースができることは心強いことです。

第2回大会も第1回と同じコースで行われましたが、第3回大会はウラジオストクと舞鶴そして宮津を結んで開催された「JAPAN SEA YACHT RACE 1993」との併催となり、第1レースは境港から舞鶴のコースで、フィニッシュラインはウラジオストクからのレースとの共用となりました。第2レースは舞鶴湾内で、第3レースは舞鶴から宮津のコースでした。昨年の第4回大会は、オフショアレースの距離を短くすることになり、香住ヨット協会の協力を得て兵庫県の柴山港から宮津湾への第1レース(60マイル)と、宮津湾内の第2レースで開催しました。「境港は遠い、柴山は近い、それじゃ鳥取にしよう」。今年の第5回大会は、鳥取外洋クラブの協力を得て、第1レースは鳥取県鳥取港から宮津湾へのコース(80マイル)としました。もちろん第2レースは宮津湾で、そしてフィナーレは艇上より見る花火大会です。

8/14日 15:00。第1レースは7艇の参加で好天の鳥取港沖をスタート、〈ファルコン3〉(BEN-F40)が沖出し、〈飛海〉(木造-45)が岸よりコースをとった。これは余部崎から経ヶ岬の潮の流れと、海岸よりそそり立つ山々の影響を受ける風の状況により艇を勝利に導くコースが毎回違っているからです。

8/15日 04:32。夜明けの前の暗がりのなか宮津ヨットハーバー前のフィニッシュラインに〈武美衣〉(X-372)がファーストフィニッシュ。2着は経ヶ岬で風に捕まった〈珊瑚礁〉(WHITE-32J)が夜明け後の06:15にフィニッシュしました。ファーストホームと目された〈ファルコン3〉は沖出し後順調に走っていましたが経ヶ岬を大きく回り過ぎた上、風に捕まり大きく遅れてのフィニッシュとなりました。

宮津湾に入ってから、振れ回る弱い風と風で全艇苦労してしま

したが、湾口へのアプローチが一番遅くなった〈TOKISEI〉(木原-31)は、熱暑の中フィニッシュ手前の2マイルに2時間余りを費やし、最終フィニッシュとなりました。第1レースの結果は、ファーストホームを果たした〈武美衣〉が修正でも2位を大きく離して1位となりました。



8/16日の第2レースは、幅1マイル奥行4マイルの宮津湾をめぐり使ったのソーセージコースで、風向きに関係なく湾口中央と湾奥の天橋立の南端沖にブイが打たれます。

10:30 南西の微風の中、宮津ヨットハーバー沖のスタートラインを全艇そろってスタート。フリートレース常勝の〈AMABENGER II〉(ELLI-7)が〈武美衣〉と競いあいながらリードを広げ、振れ回る風に悩まされながらファーストフィニッシュ。修正でも1位となった。2位は10年以上使ったセイルが先日壊れてしまい、借り物のセイルで良く走った〈ITOMAKI-III〉(V-26C)でした。昨年1位でレース巧者の〈SUPER HATCHMAN〉(J-24)は4位と不本意な成績でした。

表彰式では、総合優勝とオフショアレース優勝の〈武美衣〉に京都府知事杯と第8管区海上保安本部長杯が、インショアレース優勝の〈AMABENGER〉には宮津市長杯がそれぞれ手渡されました。18:00 昨日のパーティの残り物を平らげたヨットマンたちは、「また来年も」の言葉を残し、夕暮れの中花火見物に出航していきました。

若狭フリートの活動地域に在泊するクルーザーヨットの数は約50艇。フリート登録艇は20数艇と大変少なく泊地不足で今後の増加も見込めません。しかも、大会は慢性的資金不足と参加艇の減少に併せて、レース開催までの準備やレースの運営の人手不足などフリートメンバーには大変な負担を強いているのです。しかし私たちは、それらも楽しみとして受け入れ「自分たちが楽しむためには自分たちの手でやろう」という気持ちで手作りの大会をこれからも続けていくつもりです。

第5回宮津ドルフィンカップレース成績

●第1レース:鳥取～宮津ロングオフショアレース
(鳥取港～宮津湾黒崎沖、約80マイル、参加7艇)

総合成績	セイルNo.	艇名	所要時間
1	3623	武美衣	13:27:15
2	4515	珊瑚礁	15:10:26
3	2683	DIPPER	16:52:30
4	3814	CORAL PRINCESS	17:50:23
5		ファルコン3	17:37:03
6		TOKISEI	20:20:31
RET		飛海	

●第2レース:宮津湾インショアレース(宮津湾内上下コース、参加10艇)

総合成績	セイルNo.	艇名	総合成績	セイルNo.	艇名
1	4655	マペンデアー	6	3814	CORAL PRINCESS
2		イトマキ	7	2683	DIPPER
3		ネプチューン	8	2468	ノースサイド
4	4087	スーパーハッチマン	9		珊瑚礁
5	3623	武美衣	10	4265	ファルコン3

知多ヨット局

東海支部通信委員会委員長 榊原秋元

知多半島の先端、知多郡南知多町片名で33階建ての高層マンション(チッタナポリA棟)の屋上に、(財)日本船舶振興会の補助金事業として、NORC海岸局「知多ヨット」を開局することができました。たいへんロケーションのよいところで、敷地内の管理棟からリモコンでオペレートしています。

計画の段階では、幸いにもこれだけのロケーションにかかわらず、他の無線設備はありませんでした。ただ屋上が緊急時避難用のヘリポートになっており、アンテナの設置場所、同軸ケーブルの引き回し等、いろいろ規制があり苦労しました。

平成7年6月23日免許で、6月25日に開局記念式典を行いました。参列者は東海電気通信監理局長代理、第四管区海上保安本部長代理、その他オーナー、常任委員等約40名で、免許状授与式・記念交信・パーティと、盛大にとりおこなわれました。

国際VHF50Wで、チャンネルは他のNORC海岸局と異なりch74のみです。地域のフェリー会社がch71を使用しており、許可にならず残念でした。運用は今のところヨットレース開催時と日曜日(可能な限り)の予定で

す。カバーエリアとしては伊勢湾全域、三河湾全域、遠州灘御前崎付近まで、熊野灘五箇所湾付近までを予定していますが、開局して間がないため実際のところどこまで交信可能か解りません。

今年の鳥羽パールレースで運用したところ、御前崎付近までは交信できそうです。7月15日、関東より回航のヨットと御前崎の東20マイル地点で交信できました。レース当日は、雷雨のためか最速で東経138度18分、北緯34度32分でした。ほぼ40~50マイルくらいは交信できそうです。

単独の無線局なので通常は無人です。依頼のあったときに運用するというパターンです。VHF搭載艇が増え、毎週末運用依頼を受けるようになることを願っています。



右のビルがチッタナポリ。屋上に知多ヨット局がある

鳥羽パールレースは、第38回(平成9年)から通信手段に関し特別規定はなくなり、国際VHFのみとなります。このため東海支部では国際VHFの機器および取付け、免許申請までセットで、特別格安に斡旋しています。お申込み、お問い合わせは、東海支部事務局(052-971-5835)まで。

設置場所 愛知県知多郡南知多町大字片名字浜山1-42 チッタナポリA棟屋上
東経136度58分28秒 北緯34度42分46秒

設備 送受信機 日本無線 JRV-500ADM VHF ch74 50W
管制器 日本無線 NCU-272
アンテナ 日本無線 BRC-1511 カーゴオイド型 137m高
オペレーター 四海通5名 二海特1名

ロランC国際協力チェーン運用開始

〈本部通信委員会〉

これはこれまで各国が独自に運用してきたロランC局をお互いにチェーンを組み直し、運用するものです。これにより今まで我が国が運用に関係しているもののカバーできなかった北海道、日本海、東シナ海を含む日本の周辺すべての海域がカバーされることになります。

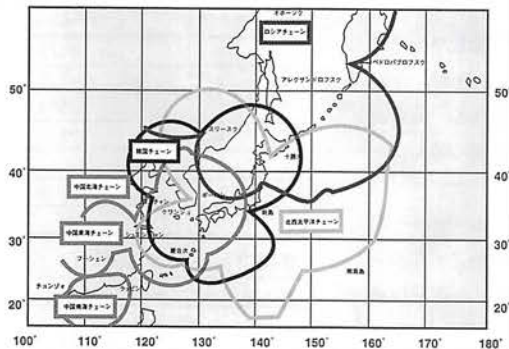
すでに中国南海チェーンは正式運用を開始しており、その他、北西太平洋、ロシア、韓国、中国北海、中国東海の各チェーンは、10月までには試験運用を開始し、来年1月には正式運用となります。有効範囲は図の通りです。

国際協力チェーンを利用する

には、①LOP値、②緯度・経度 ので、本部通信委員会にお問い合わせ下さい。
値のどちらかを利用しているか 合わせ下さい。
により、利用方法は異なります

国際協力チェーンの有効範囲は？

●有効範囲は次のとおりで、我が国周辺のすべての海域ではいずれかのチェーンが利用できます。



無線従事者国家試験のお知らせ

●第4級海上無線通信士

試験日：平成8年2月2日(金)
科目：無線工学、法規、電気通信術
申込期間：平成7年12月1日~20日まで

●第1級、第2級海上特殊無線技術士

試験日：第1級(平成8年3月5日(火))
第2級(平成8年3月4日(月))
科目：無線工学、法規、
電気通信術(和文)
(第1級は英語(記述式)、通信術
(欧文)を加える)
申込期間：平成8年1月1日~22日まで

国家試験対応勉強会を計画しています(2~3週間前、5日間程度、最少人数10名)。また、教科書も在庫がありますので、NORCにお問い合わせ下さい。

〈たか〉訴訟シリーズ(第18回)

法廷へのお誘い

JGYR92訴訟対策委員会 服部一良

裁判所にも年末年始とお盆には休暇があるようで、毎月一回のペースも12月と8月はお休みになっていました。ところが今回は7月で準備書面の段階を一応終了し、次回からいよいよ本格的な証拠調べに入ることです。8月、9月と続けてお休みになりました。われわれもちょっと一服できて、そこで従来のレポートの代わりに次回のご案内をお知らせ

します。

10月12日の午後1時半から2時間の予定で、〈たか〉のクルーだった佐野三治氏が、証人として出廷、原告側代理人の質問を受けます。場所は東京地裁民事627号室です。佐野三治氏は、NORC側の証人でもあって、次々回はNORC側の代理人が同氏に質問する予定です。なおNORCは、証人にJGYR92当時の協会会長

だった石原慎太郎名誉会長やJGYR92当時の協会副会長だった大儀見薫理事および、尾島裕太郎JGYR92レース委員会委員長などを申請しています。

今後の法廷は、ますます核心に迫り緊張すると思われます。ぜひ傍聴されたく、お願いします。

以上

NIFTY-Serve セーリング&ウォータースポーツフォーラム 解説：田口裕介

パソコン通信ネット「NIFTY-Serve」は様々なジャンルのフォーラムと呼ばれるものがある。セーリング&ウォータースポーツフォーラム（以下FSAILINGと記述）もその一つだ。ここにはヨットも含まれる。

NIFTY-Serveに接続して「GO FSAILING」というコマンドをたたくとFSAILINGの入り口へとたどり着く。入り口は下記のとおりである。

〈セーリング&ウォータースポーツ〉FSAILING or FWATER

- | | | |
|-------------|---------|------------|
| 1：お知らせ | 2：掲示板 | 3：電子会議 |
| 4：データライブラリ | 5：会員情報 | 6：リアルタイム会議 |
| 7：SYSOP宛メール | 8：オプション | E：終了 |

掲示板は「売ります・買います」や「クルー募集」などといったものが掲示されている。誰でも掲示したいものを掲示することができる。

電子会議は名前はいかめしいが、「筆談場所」とでも表現すればいいだろうか。自由に誰かが書いたものを読み、そして書くことができる場所だ。クルーザーの会議室、ティンギーの会議室、メンテナンスの会議室、帆船の会議室、リサルトの会議室などが用意されている。「船底塗料は何かいいの」という質問やそれに対する答え、クルージングレポートや、艇装に関する考察、レースリサルトなどなど何でもありである。

データライブラリは様々なソフトウェアまたはデータを格納しているところ

だ。誰でも自由にデータを登録できるし、ダウンロードして入手することができる。我々に関係するところでは「海上衝突予防法」や「YFRP」、そしてNORCが登録した「IMSのハンディキャップ表」などがある。

パソコンと言うと「情報が入手できるもの」というイメージがあるのではないだろうか？それは必ずしも正しくない。パソコンは「情報交換」のためのモノである。情報通や業界人も参加しているので高いレベルの情報が書き込まれることもあるが、参加者の多くはフツートのヨット乗りだ。ヨット仲間の談笑をイメージするとよいかもしれない。話す代わりに文字にしてNIFTY-Serveに送るだけの違いだ。その場で反応が得られない代わりに聞き手は全国規模となり、好きな時間に読み・書くことができる。たまにガセネタが含まれるところまで談笑にそっくりだ。やり取りのなかから役立つ情報が入手できたり、親しくなったり一緒に船に乗るようになったり、はては結婚したカップルまで少なからずいる。

パソコン通信を始めたからといって、おもしろい情報が湧いてくるわけではない。が、パソコンと電話線の向こうに何百というヨット仲間の輪に入ることができるのである。

※NIFTY-Serveについてのお問い合わせはニフティ株式会社メンバーサービス部 03-5471-5806

Advanced Marine Stage Marine Vance

マリンアクセサリ・マリンカジュアルウェア・マリンインテリアのトータルショップ

1F ★秋、冬物大量入荷 在庫豊富

NEW セーリングトラウザーズ HSU 7553 **¥18,000**

NEW パイルジャケット クラシック HMR 7456 **¥16,000**

NEW セーリングジャケット HSU 7552 **¥21,000**

NEW ポーラライトジャケット HMS 7567 **¥20,000**

NEW クラシックパイルフルオーバー HMR 7559 **¥12,000**

NEW マルチジャケット HOB 7554 **¥18,000**

NEW ポーラライトフルオーバー HMS 7564 **¥18,000**

NEW マルチ HOB 7555 **¥18,000**

NEW ポーラライトジャケット HMS 7565 **¥20,000**

NEW ポーラライトフルオーバー HMS 7566 **¥12,000**

2F

プラスチモ マイボートフィッシング 200=全長200cm 全幅115cm 深さ38cm 重量22kg **¥58,000**

3M Step商品 驚異の洗浄力!!

ファイバークラス用 クリーナー&ワックス 9009 473ml **¥1,100**

プロテクティブ リキッドワックス 9026 473ml **¥1,300**

ファイバークラス用 レストア&ワックス 9005 473ml **¥1,100**

ボートソープ 9034 473ml **¥1,160**

特価提供品

フェンダーラック2連/3連 各種 ¥17,800~¥28,000→ **¥8,900~¥14,000**

高圧洗浄機(東芝)HP-400A(100V) ¥65,000→**¥45,000**

アキレスナビ フォーゲル 上下 ¥15,600→**¥5,000**

CAVINESS パドル

3 FTY ¥3,900→**¥3,120**

2 FTY ¥3,300→**¥2,640**

『マリンヴァンス海外 通販カタログ会員募集中!!』

話題のUSAトップマリンカタログ

WESTMARINE 社製 Port Supply のカタログ掲載商品が手に入ります。

詳しくはお問合せ下さい。

便利な全国通信販売をご利用下さい。

- お電話、FAXでもご注文いただけます。
- メーカー、型番、色、サイズ、納期を確認の上注文して下さい。
- ご注文の商品は銀行振込確認後、発送させて頂きます。又は、代金引換発送とさせて頂きます。
- 振込料はお客様負担になります。
- 振込先) マリンヴァンス 三和銀行 横浜支店 ①19081 振込は電話にてお願いします。 TEL: 045-681-0943 FAX: 045-641-1503

Marine Vance

マリンカタログ 定価¥5,000 好評発売中

マリンヴァンス/〒231 横浜市中区相生町6-104 TEL (045) 681-0942代 平日 AM10:00~PM7:00 休日・祝・祭日 ●各種クレジット取扱い及び通信販売取扱い



HANES CUP CHAMPIONSHIP YACHTING SE

琵琶湖の風をつかんだ<IBIZA> (ジャーナ



第4レーススタート

1995年9月15～17日、38艇の参加を得て、ヘインズカップチャンピオンシップヨットイングシリーズ'95が琵琶湖で開催された。今回で5回目をむかえたこの大会は、NORC公認のクルーザーレーティングを使用し、参加艇はコンペティティブなレース展開をみせた。来年は運営・参加者がさらにステップアップしたシリーズレースにすることだろう。

ついにようやく、正式公認されたレーティングでの「ヘインズカップ」がスタートした。いままではというと、業界ではすっかり流行り言葉になった「コンピュータ」でのレースだっただけに、この1995年は琵琶湖でのレーティング元年になるような気がする。以前からミニトン、スモールボートはIOR、CRでレースを開催してきたが、クォーター、ミドルボート以上の艇もできないはずはなかったのだが、「ヘインズカップ」のおかげでようやくクルーザーレーティングを認識しはじめることができた。この影には近畿北陸支部の並々ならぬ努力があったことはいまでもない。

つい最近までの参加者は、本部艇に乗ったエントリーフィー集金人がレーティングをつけるものだと思っていたのに、…間違っ

力と、それに見合う参加者や一般社会へのパブリシティが今後の課題として残されている。ただ、運営サイドはもちろん参加者が、ヨットレースを町内会の運動会レベルで考えるのか、国体やオリンピックまたそれ以上のレベルで運営・参加するのかが問題で今後これを明確にすべきであろう。

たとえば、クルマのレースを例にとるとJAFが公認するレースでないとい何の評価も得られないし、ボルシェクラブのスカベンジャーレースで優勝したところで、マクラーレンからF1ドライバーへのお誘いはまったくないし、メディアでも三流雑誌に興味本位でしか取り上げてもらえない。このJAFに例えられる団体は今のところNORCだと思える。この「ヘインズカップ」の持つ意義は大きい、琵琶湖のヨットレースがハード面でもソフト面でも大きく変貌し、よい方向へと向かっていく気がしている。

ただ、今のところクルーザーレーティングにもデメリットはある、例えばボート性能ス

ピードは同じでもハル形状の違いで大きくレーティングに差が出てしまうような、イコールでない部分もあるのだが、今のレベルと大きな道具を使つての競技ではどうしようもないことなのかも知れない。加えて、運営側にも参加者側にも参加するレースレベルに合わせて競技ライセンスが必要なのではないだろうか。例えば、カーライセンスみたいに国内B級、国内A級、国際A級とか。NORC正会員ではカッコ良くないし、女の子にも聞こえが悪いし、「オレAライセンス持ってるぜ」って人にいえるし、なにより意識が変わって今後のレース運営も安全にスムーズに事が運ぶ気がする。

さて、昨年は琵琶湖は異常渇水という事態で「ヘインズカップ」が中止に追い込まれ、参加各艇、第5回目に賭ける意気込みはすざましいものを感じられた。ライバルには極秘でニューセイルを発注、プロフェッショナルセーラーの獲得、かたやボートスピードアップのためにチューニングを繰り返す艇、ライバル艇の走り比べ等々、「ヘインズカップ」に向けて目を輝かせていた。

'95年9月15日、早朝、38艇のシリーズ参加者が大会本部のヤマハマリーナ琵琶湖に集結した。クラス分けは、ヤマハ31SのCR7.95mと8.00mの10艇をクラスIIに、これを境にそれ以上のCRをクラスIに12艇、クラスIIIが成立しなかったため、以下をクラスIV、16艇の計38艇で争われることとなった。クラスIVはヤマハ23が8艇参加し、クラスII、IVはワンドザインボートによるおもしろみあるレースが予想された。クラスIには常連のジャヌー3艇、Y-31Sにビッグセイルを装備した<OLIVE>や、つい先日相模から持ち込まれた<KONAWIND> (FARR3/4)らがクラス優勝を競いあうと予想された。クラスIIはどのチームが勝利を収めるかは全く予想がつかない。クラスIVには前年度全日本Y-23チャンピオン<SUPER WINDY>、ミニトンからの移籍の新艇<AKAVIT>、一昨年オープンクラスの覇者<SWIFT>がY-23を購入し望んだ。

15日、スタート時刻が近づいても全く風がない。時折ほんの少しかだけブローが降りてくるが全くレースとして成立しない風、その状態がなんと5時間も続いた。風待ち5時間後、

RIES '95

38) が初優勝

リポート／大西宗元(近畿北陸支部) 写真／尾澤征昭



右が総合優勝の〈IBIZA〉

やっと3時50分に第1レースはソーセージコース、4.5マイル先のゴールを目指してスタートした。風速は8ノット以上は上がらない、フリートはボートサイズ順に一列に並び各マークをクリアしていく。この第1レース、クラスIVのトップ艇団は大型艇をビックリマークし、総合を狙う位置を占める。スタート後わずか54分でトップ艇〈IBIZA〉がフィニッシュ。クラスでも修正トップをひとまずキープした。総合トップを争う〈AKAVIT〉〈SWIFT〉が僅差の17秒差でフィニッシュ。このたった17秒差が修正1秒でトップが〈SWIFT〉になり総合でもトップに踊り出た。

クラスIIは〈ANSEIMARU〉が着順4位とクラスIに割って入り、一躍クラスIIの優勝候補と注目を浴びた。このレース〈SUPER WINDY〉はリコールを自ら解消しながらもクラス8位まで挽回し、シリーズに望みをつなげたかに見えた。結局、第2レースは時間切れのノーレースとなり、明日へと持ち越された。

2日目、台風12号の影響で雨模様の中、レースコースの北湖へと全艇移動。この日はトライアングルコース。スタート時8ノットあった風も次第に落ちはじめ途中には0m/sを記録し、クラスIVは全艇DNFとなった。このDNFがこのヘインズカップの行方の全てを変えてしまうとは、この時誰も予想はしていなかっただろう。このレースを終えて総合は、〈FIREBIRD〉がトップ、2位に〈ADRIAN〉、3位に〈ALL HANDS〉とY-31S軍団が上位につけた。

レースインターバルの間に北から少し強いブローが吹き下ろし、15ノットをオーバーの中レースはスタートされた。一時は20ノット

を記録、このブローの中でもクラスIVが速く、〈AKAVIT〉〈SWIFT〉がバトルを繰り広げる、クラスIIは〈ADRIAN〉、〈大地〉、〈ANSEIMARU〉が続き、全く勝者の行方はわからない。一方クラスIは〈KONAWIND〉(FAR3/4)が修正トップ、〈IBIZA〉が2位をホールド、3位には3DLを装備したY-31Fが大検討ススポーツボートとしての速さを証明した。

明けて17日、琵琶湖は台風の影響をまともに受け、早朝からマスト、リギンを強風が叩きつけ、赤い吹き流しがこの日のシリーズ最終戦と、オープンクラスのショートディスタンスコースレースの中止を告げてしまった。そこでレースの明暗がはっきり分かれた。クラスIVの総合優勝は全くなり、クラスI、クラスIIの上位艇にその焦点が絞られた。参加者、いや運営サイドも台風については、台風のコースが外れたと思い込んでいたため、改めて、トータル3レースの集計を見直した。そこで浮上してきたのが、クラスIから総合を上位で走り続けた〈IBIZA〉が2位の〈ADRIAN〉に8点の差をつけ初のヘインズカップ優勝を飾り、3位には〈FIREBIRD〉と続いた。当然クラスIには〈IBIZA〉、クラスIIには〈ADRIAN〉、クラスIVには総合優勝こそ逃したものの〈AKAVIT〉を2.5差で破った〈SWIFT MAGIC〉が初の栄冠に、しかしこの争いは10月の全日本にまで持ち越さ



表彰式・パーティ会場

れることになった。中止になったその日の午後1時、オープンクラス参加者も交え、表彰式、レセプションが小雨の中開催された。その中、ダイワボウアパレル株式会社 高木社長のご挨拶に、また来年もタイトルスポンサーとして参加することを約束していただき、大拍手の中第5回ヘインズカップチャンピオンシップヨットینگシリーズの幕を閉じた。

本年もダイワボウアパレル株式会社はじめヤマハ関西株式会社、重松貿易株式会社、株式会社JEUGIA、キャプテンミツオ、セイルクラフト、株式会社ダイヤモンドセル、ノースセイル株式会社、ハーケンジャパン株式会社、135E株式会社、タスクフォース、そして数々のご協力をいただきましたヤマハマリーナ琵琶湖の方々、株式会社フォースセブン、そして最後にヘインズカップをここまでレースに押し上げてくれたNORC近畿北陸の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

ヘインズカップチャンピオンシップヨットینگシリーズ'95総合成績(参加38艇)

総合順位	SAIL. NO.	艇名	艇種	オーナー名
1	3792	IBIZA	JEAN38	坂本 博
2	4105	ADRIAN	YAM31S	田中 一郎
3	3556	FIREBIRD	YAM31S	杉田 雅信
4	4492	大地	YAM31S	刀根 一郎
5	3678	ANSEIMARU.3	YAM31S	辻村満三朗
6	4933	OLIVE5	YAM31S	吉田 豊
7	5001	AGNES	YAM31S	田中 慎一
8	5447	SWIFT MAGIC	YAM23.3	平川 猶基
9	3300	AKVAVIT	YAM23.3	太田 光重
10	3561	KONA WIND	FARR3/4	吉永 豊一
11	3017	ALL HANDS5	YAM31S	高橋 直之
11	5044	NEIAFU	YAM23.2	岡 利一郎
13	3969	SAYUTO	YAM23.2	高橋 利明
14	3337	SCOOT	YAM31S	岩本 吉則
14	4747	ALFA MARINE	JEAN350/D	中田 哲嗣

読者 プレゼント

ヘインズカップチャンピオン シップ ヨットینگシリーズ'95 ポロシャツ・Tシャツを12名様に

提供/ヘインズカップ事務局

今年も琵琶湖で盛大に開催された「ヘインズカップ」。このレースのオリジナルポロシャツ及びTシャツを12名様にプレゼントいたします。

希望される方は、ハガキに住所・氏名・年齢・電話番号・NORCの会員番号・所属フリート・所属艇名・OFFSHORE誌の感想をご記入の上、10月30日まで必着にて「OFFSHORE編集部読者プレゼント」係までご応募下さい。

★8、9月合併号のプレゼント当選者は抽選の結果、下記の6名様に決定しました。(敬称略)

- ①完全防水ボート：野田裕二(神奈川県)、宮澤秀治(神奈川県)、
萩沢昌次(岐阜県)
- ②ア杯ビデオ：大賀祥介(神奈川県)、中川 聡(埼玉県)、
榎田 隆(徳島県)



第1回MEKARI CUP RACEのお知らせ

主催：NORC西南海支部 布刈フリート

日時：1995年11月4日～5日

場所：広島県尾道市沖(布刈瀬戸)

クラス分け：IMSクラス

CRクラス

オープンクラス

艇数によりクラス分けする

レース内容：第1レース 上・下コース(4時間耐久レース)

第2・3レース 上・下コース

オープンクラスのレースは、島回りとする

泊地：境ヶ浜マリーナ(レース1週間前後無料)

宿泊：ベラビスタ境ヶ浜(一泊朝食付き：5,000円)

参加費：20,000円(会員艇15,000円)

乗員登録：4,000円(会員3,000円、パーティー費含む)

申込締切り：10月20日(遠来艇は10月25日)

申込問合せ：〒720-11 広島県福山市駅家町倉光596-2

吉元 裕二

TEL(0849)76-0953

FAX(0849)76-4198

OFFSHORE 1995年10月号(No.240)目次

第9回石原裕次郎メモリアルヨットレース1995.....	1
「ヨットの科学」勉強会(その2)ヨットと水槽試験.....	6
女性セーラーのページ(その2).....	7
「ニッポンチャレンジ」次回ACに挑戦を表明.....	8
新しい風、新しい帆を(その7).....	9
KSCシリーズの魅力(第6戦までを終えて).....	11
第5回宮津ドルフィンカップヨットレース.....	12

NORC海岸局訪問記(その5)知多ヨット局.....	13
〈たか〉訴訟シリーズ(第18回).....	14
NIFTY-Serveセーリング & ウォータースポーツフォーラム.....	14
HANES CUP CHAMPIONSHIP YACHTING SERIES '95.....	15
読者プレゼント.....	17
第1回MEKARI CUP RACEのお知らせ.....	17
目次・編集長より.....	17

編集長より

読者プレゼントをはじめてから、その応募ハガキに書かれた本誌に対するさまざまなご意見を読ませていただくようになりました。直筆で書かれた会員各位の生の声に接するたびに、5,000人を越えたNORCという大きな組織のなかで課せられた本誌の役割の大切さに痛感するばかりです。個々と組織を結ぶパイプ役として今後も努力する所存ですので、どしどしご意見をお寄せください。

さて、その投書のなかで、本年7月号に掲載した「ヨットの科学勉強会」のその後を知りたいという声がありました。よいタイミングで8月末に次の勉強会がありましたので、

会を主幹する大橋氏に今月号でレポートをお願いしました。見学した施設は都心から車で1時間はかかる場所。休日を割いて集まったヨット乗りたちの熱意には関心させられるばかりです。

この他、地方の記事を増やしてほしいという声が多いのですが、なにぶん印刷費と配布送料だけで予算の85%ほどを使い切ってしまう現状では出張取材は困難です。そのなかで、前月号は思い切って徳島ヘスタッフを送り、阿波踊りレースと徳島フリートを取材しました。地方の記事を掲載したいと思う気持ちは編集部とて同じです。本誌に掲載されるレース記事の大半は、各々の関係者による投稿で成り立っています。どの支部、フリート

にも、物を書いたり写真を撮るのが好きな会員がいるはず。その方々の名前を、1人でも多く記事のクレジットに載せていきたいと思っています。

表紙：風に恵まれ今年の夏最後のイベントレースは大いに盛りあがった。撮影/添畑 薫

OFFSHORE 240号

第240号 平成7年10月15日発行
毎月1回15日発行
昭和52年7月21日 第三郵便物認可
1部定価300円(郵送料別)
発行 社団法人 日本外洋航海協会
発行人 浅野英武/編集人 市川和彦
東京都港区虎ノ門1-11-2(第2船舶振興ビル5階)
電話・東京03(3504)1911
FAX・東京03(3504)1914 〒105
郵便振替番号2-21787
印刷 株式会社気生堂印刷所



HARKEN Dry Suit

Nylon oxfordでラミネートされた素材は耐水性に優れ、その上縫い目もシールドされ、高耐水性を保障しています。
また、LATEXラバーネックはリスト、くるぶしを完全に保護し、セーラーをサポートしています。
更に自然排水ネックポケット、キールニヤード、耐久ジッパー、またダブルレイヤードの自然排水ひし、シートパッチに加え、アジャスタブルコード付ウェスト等万全の装備です。
SIZE: S/M/L/XL/XXL
COLOR: 2427: Royal w/black trim
PRICE: ¥58,000

HARKEN SAILING APPARELS



HARKEN Sailing Jacket

マルチシーズン対応の3 in 1 ジャケットはセーラーのためにつくられたジャケットです。
気象条件に応じてジャケット、ライナーのみの着用が可能で、また、ジャケットとライナーの組み合わせ(ジッパーによるフィッティング)は非常に暖かく、ハードなセーリングに適しています。
SIZE: S/M/L/XL/XXL
COLOR: 2391: Red shell/navy liner
COLOR: 2392: Navy shell/navy liner
PRICE: ¥28,000

HARKEN Waterproof Jacket

軽いナイロン素材でありながら、高耐水性に優れたジャケットです。しかもナイロン素材にコーティングに加え縫い目もシールドされ耐水性を増しています。
またポケットにはバイルライン素材が使用され手の保温に最適です。
裾はアジャスト機能付。
SIZE: S/M/L/XL/XXL
COLOR: 2426: Royal w/black trim
PRICE: ¥12,000



HARKEN Vests

シーズンを問わず快適さを誇るベストです。
Expedition Cloth taslan製、ポーラフリース素材採用で暖かく、また強風時でもフラップを立てることにより耐寒性もアップし、更にフリースハンドウォーマーで保温性も抜群です。
胸にはHARKEN利しゅうロゴ入り。
SIZE: S/M/L/XL/XXL
COLOR: 2421 Red w/navy
2422 Black w/black
PRICE: ¥11,000



HS-2

HS-1



HARKEN BOAT SHOES

HS-1はスウェードとメッシュのコンビジット製造。
HS-2は軽量、且つ通気性に優れた合成皮革を採用した速乾性、高ノンスリップとセーラーのために開発された、運動性に優れたボートシューズです。
SIZE: 5inch~14inch
2020 TYPE: HS1 (Suede & mesh) PRICE: ¥10,800
2021 TYPE: HS2 (Synthetic leather) PRICE: ¥14,200

HARKEN LA-Z Laces

画期的なスリッパシステムのLA-Z Laces(くつひも)です。
取り付けはラバーピンでフィットするだけです。※あらゆるシューズにフィットします。
COLOR: 2389 B-Black 2389 W-White 2389 G-Grey 2389 P-Purple
PRICE: ¥1,600

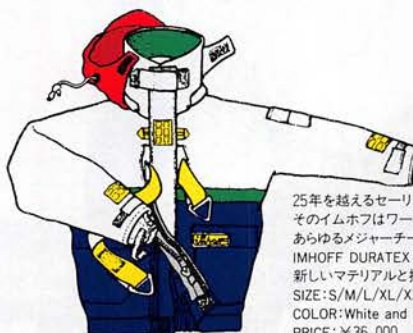
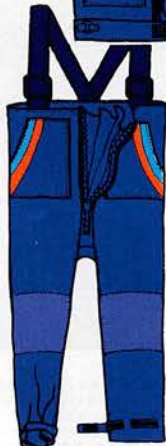
HARKEN Sailing Gloves

ハーケン¾フィンガーグローブはAMRA LEATHERを採用し、耐久性、且つソフトです。
また、ナイロンスバンデックスメッシュは常にドライで通気性に優れています。
更に手のひら、指部はダブルステッチでハードセーリングにも最適です。
SIZE: XS/S/M/L/XL/XXL ※2386 ¾ FingerとFull-fingerタイプの2種。
PRICE: ¥4,800



CHANNEL JACKET OCEAN TROUSERS

このチャネルジャケットがセーリングの新しい楽しさを提供します。
スプレー、風、耐寒性に優れたチャネルジャケットはセーリングシーズンを引きのばし、ヨットライフを長くエンジョイさせてくれます。
その性能は、スポーツ性、運動性の良さもさることながら着ここの良さも特筆できます。
SIZE: S/M/L/XL/XXL
COLOR: Navy/Red
PRICE: ¥28,000 (CHANNEL JACKET)
¥20,000 (OCEAN TROUSERS)



OCEAN JACKET

25年を超えるセーリングの歴史を持つイムホフ。
そのイムホフはワールドチャンピオン、オリンピックセーラーをはじめあらゆるメジャーチームが愛用しています。
IMHOFF DURATEX 2000ラインは、新しいマテリアルと技術で快適なセーリングを可能にしています。
SIZE: S/M/L/XL/XXL
COLOR: White and Navy
PRICE: ¥36,000

HARKEN

ハーケンジャパン株式会社

〒663 西宮市今津西浜町2-16 今津パワーボートセンター2F

TEL.0798(22)2520 FAX.0798(33)2100

関東事務所

TEL.0468-76-0404 FAX.0468-76-3647





CORUM

Maîtres Artisans d'Horlogerie

SUISSE

ROMVLVS



Ref. 43 901 21
(18K YG/SS, クォーツ)
¥200,000



Ref. 50 103 56 V48
(18K YG, クォーツ)
¥1,570,000



Ref. 50 501 56
(18K YG, クォーツ)
¥710,000

古代ローマ帝国建国の祖、英雄“ロムルス”の名を戴く時計。コルムから。

《写真/上》Ref.43 903 21 V48(18K YG/SS, クォーツ, カレンダー、ブレスレット付) ¥380,000(税抜価格)

コルム日本総発売元 日本タイマート株式会社 〒101 東京都千代田区神田松永町18ビオレ秋葉原 TEL.03(3253)1331/〒542 大阪市中央区西心斎橋1-15-7心斎橋アサノビル TEL.06(281)1831

●カタログご希望の方は、ハガキに住所・氏名・年令・職業・電話番号を明記の上、上記のカタログ係までご請求ください。

■写真の製品は全国のコルム・ウォッチ正規特約店にてお取扱ひしております。 函館 西武/札幌 三越・東急・そごう・丸井・今井・春美堂・オハラ・徳本時計店/旭川 西武/秋田 仙台 amc西武・三越・華崎/郡山 丸井/水戸 丸井/土浦 丸井/筑波 西武/日立 ポンペルタ伊勢長/宇都宮 西武/大宮 高島屋・そごう・丸井/浦和 伊勢丹/川口 そごう・丸井/東武 丸井/柏 丸井/松戸 伊勢丹・そごう/船橋 西武・そごう/千葉 三越・そごう/東京・近郊 高島屋(日本橋・立川・玉川・横浜)・西武(渋谷・池袋・川崎・所沢)・三越(日本橋・池袋・新宿)・大丸(東京)・伊勢丹(新宿・立川・相模原)・京王(新宿)・小田急(新宿・町田)・松屋(銀座・浅草)・東急(本店・東横・吉祥寺・町田)・近鉄(吉祥寺)・そごう(横浜・多摩・有楽町・八王子)・丸井(中野・上野・錦糸町・渋谷・池袋・新宿・国分寺・大井町・町田・横浜・戸塚)・ビサ(東京プリンス)・和光・天賞堂(銀座)・ヨシダ(麹町)・さいかや(横須賀)・レクレドール(インベリアルプラザ)/新潟 伊勢丹/松本 ワキザワ/沼津 西武/静岡 西武・タカラ堂・松坂屋・丸井/浜松 西武・松坂屋・焼津 ムラマツ/豊田 そごう/金沢 大和・名鉄丸越/横井 ノリ/名古屋 名鉄・松坂屋・丸栄・三越・長谷川時計店/豊橋 西武/大津 西武/京都 高島屋・大丸・喜多山・近鉄・寺内/奈良 そごう/和歌山 ジョイマツバラ・大丸・近鉄・丸正/大阪 高島屋(難波・堺)・そごう(心斎橋)・西武(八尾・高槻)・近鉄(阿倍野・上六)・大丸(心斎橋・梅田)・阪急(梅田)・阪神(梅田)・松坂屋・三越・やぶ内時計店・オームラジュエリー・ケルエ・京阪・志保屋・ヤマシナ(虹の街・生野)・大北(岸和田)・こやなぎ時計店・仲庭(総本店・三番街店)・尚美堂・まき宝飾/神戸 大丸・そごう・カミエ(サンプラザ・トアロード)・三宮時計店/姫路 西武(つかし人)/加古川 そごう/姫路 ヤマトヤシキ/岡山 高島屋・大丸・大丸屋・トミヤ/広島 そごう・下村時計店/松山 ダイアン・はてつ・そごう・三越/香川 ダイアン・三越/徳島 そごう/高知 西武・大丸/福岡 タイムブティック(君田屋ソラプラザ)・大丸/小倉 井筒屋/久留米 岩田屋・長野時計店/熊本 岩田屋/長崎 イノウエ・グレイスタカミ/佐賀 佐賀 ミツノ/佐賀 シルクロード/富崎 ジュエリーボックス八木・熊本時計店/鹿児島 山形屋